

市長コラム

～市民協働社会を目指して～

Vol.37



★高齢者の孤立を生まない「包摂社会」を目指して

先般の令和6年市議会第3回定例会において、令和6年度の市政運営に係る私の施政方針の冒頭で「誰一人取り残さない」市政運営に努め、「住んで良かった、住み続けたい」と思えるようなまちづくりを目指したいと申し上げました。

近年、単身高齢者世帯が増加し、高齢者の「孤立」や「孤独」が社会問題となっています。昨今のコミュニティの希薄化等により、高齢者の中には、困りごとがあっても誰にも頼ることができず、一人で抱え込む方もいるかもしれません。私は、そこに大きな問題があると思っています。孤独になればなるほど、自分から声を出すことにためらいを感じたり、そこから潜在的な「孤立化」が進むことが懸念されます。日常のごみ出しや通院、買い物、災害時の避難など身体に不安を抱える高齢者には困りごとはたくさんあるはずで、その「声なき声」にいかにか手を差し伸べるかが、地域社会、そして行政の大きな課題であると思います。

困っている人が、地域コミュニティの中でもっと気軽に「頼れる社会」、そして「頼られることに寛容な社会」を創るため、町内会や地域における互助機能を強化し、地域における「包摂社会（社会的に弱い立場にある人々も含め市民一人ひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、地域社会の一員として取り込み、支え合う社会）」を構築し、市民協働で誰一人取り残さない市政運営を目指したいと思います。

★健康長寿社会実現に向け「社会的交流」「社会参加」の促進

現在、当市の高齢化率は37.0%（令和5年9月末現在）であり、2045年には約51.6%（国立社会保障・人口問題研究所公表値）に上昇すると推計されています。

高齢者の交流と活動の場である「老人クラブ」は、市町村合併直後は、市内の会員数は7,000人超でしたが、現在は約2,100人まで減少し、約20年間で5,000人近く減少しています。また、北辰大学、ひばの樹大学、寿大学の受講生の総数が平成26年度は合計で426人でしたが、今年度は252人に減少しています。「健康長寿社会」を目指す上で、地域での老人クラブ活動や高齢者教室等を通じて「社会的交流」を行うことは大変意義があると思いますので、今後は積極的に参加を促していきたい

と思っています。

また、近い将来、人口の半数以上が高齢者となっていく中、深刻な介護人材不足、入所待機者の増加など介護分野がさまざまな難しい課題を抱えており、その打開策として「介護予防の推進」や「元気な高齢者」を増やすことが健全な社会を維持するために不可欠です。市では「アクティブシニアポイント事業」を拡充し、元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を支援する仕組みづくりを進めるなど、高齢者の社会参加の受け皿づくりや、経験・知識を生かした活躍の場や機会を、民間法人等と連携しながら積極的に作っていきたいと思います。

★令和6年度当初予算編成に当たっての考え方

令和6年度の市一般会計予算の総額は303億700万円、過去10年では最も小さい規模となりました（当初予算の概要は4～7ページに掲載）。公債費の前年度比約2億5,000万円の増（約48億5,000万円）や、物価高騰の影響による経費の増が1億円を超えるなど増加要因が大きい中、徹底した精査を行い歳出を抑制し、将来を見据えた健全な財政運営に資する予算としました。

令和6年度は、市長就任2期目の折り返しとなりますが、就任当初は市債残高が約554億円と、財政硬直化が著しい厳しいスタートでした。その後、令和5年度末は約448億円と、6年間で106億円を減らすことができました。私は、決して将来にツケを残さないという信念のもと、自分の責任の中でできる限り財政を健全化するのが使命であるという思いで市政運営に当たってきましたが、公債費のピークを迎え、高止まりが令和7年度まで続くなど数年間は厳しい状況は続きます。こうした厳しい中にも、幸いにして、今冬は少雪により除雪費が最小限で済み、財政調整基金を取り崩さずに冬を終えられたことは、まさに天が味方してくれたような感じがいたします。

新年度予算は大きな目玉事業もなく、緊縮予算とせざるを得ませんでしたが、私は、この期間は今後の新たなまちづくりに向けた「仕込みの期間」と考えています。

ここ数年は厳しい状況が続きますが、今が地域の転換期ととらえ、さまざまな主体が連携し、持続可能な地域社会の構築に向けてまい進したいと思っています。



「北辰大学閉講式・卒業を祝う会」の様子



「嘉瀬地区老人クラブ主催のお茶会」の様子